

第 19 回大阪府森林等環境整備事業評価審議会におけるご意見等

■開催日時：令和 6 年 12 月 20 日（金）午前 10 時から

■開催場所：咲州庁舎 41 階大会議室

■出席委員：長内委員、菊井委員、蔵治委員、鍋島委員、藤田委員（web）、増田委員

以上 6 名（五十音順）

■審議議事要旨

□令和 6 年度森林等環境整備事業（危険渓流の流木対策事業）の実施状況について

- この事業は、5 か年継続してやってきて本年度が最終年であり、来年度に事業の最終評価をする予定。令和 6 年度の事業については、計画通りということで特に問題がないということを確認した。

□令和 5 年度森林等環境整備事業（都市緑化を活用した猛暑対策事業）の実績に係る評価について

- 豊中市でも本事業を駅前 5 箇所を実施し、私自身もたくさんの方が涼を求めて集まってきている場面を見て、今年の夏は暑いけど優しいというイメージがターミナルで生まれてきたと思い、数字に表れない以上の効果を感じている。今後とも、このような事業があればお願いしたい。
- WBGT の低減効果が高かった箇所であるが、気温が下がった以上の数値が出ている。恐らくミストがたくさん出た時にセンサーが濡れて、濡れた効果と気温低減効果の両方の効果が入って、大きな効果が出ていると思うので、そういう計測になっていることを説明するべき。
- アンケートについては、回答者の属性や周辺状況の違いによって影響が出た可能性があると指摘されているが、それに加えて、事業内容によっても違いが出ていると思う。事業の内容によって、効果を実感しやすいものとそうではないものがあると思うので自己評価にその旨を追加してはどうか。
- 最初は効果が少なくても時を経て効果が実感できる事業であり、事業実施 4 年目にあたる今年は、好事例も出てきている。良い効果が出ているというアピールをもっとできたらいいと思う。
- アンケートの数字が低い箇所について、単にそこを通りかかった人に説明もしないでアンケートを取ったためという説明があったが、やはりこのやり方が正確なアンケートになるのではないかと思う。そうすると、この事例は、何か対策として足りなかった部分もあるかもしれないという観点からも見た方がいい結果なのかなという印象はあった。
- 誘導的な質問はアンケートではご法度であるが、アンケートを指標としている以上、アンケートの設計で何を求めるのか、どう評価するのかということは、今後とも引き続きご検討いただきたい。
- アンケート以外で確実に効果を示せる方法として、マンションの上から熱画像を撮って、屋根の温度が何度下がったとか、アスファルトの温度に比べて少し低くなっているとかといったような効果の示し

方もあると思う。

- 自己評価について、第三者評価としては妥当と評価する。

□ **令和 6 年度以降を課税期間とする大阪府森林環境税による森林等環境整備事業の実施状況及び令和 7 年度の実施予定について**

- 山間部を持つ市町村にとっては、災害の未然防止を図る流域治水対策事業等は非常にありがたいので、今後とも引き続き積極的にお願いしたい。また、市町村の方でも、府と連携しながら積極的に事業の PR をしていきたい。
- 大学の出前講座や各種イベントの広報活動において、森林に対する理解度がどのくらい高まったか等の効果計測をやっておいた方がいいと思う。
- 近年、河川の氾濫だけではなく、同時に土砂が土石流となって流れてきたり、流木が流れてきて橋に詰まったりなどの災害が全国的に増えてきているので、下流の住民のために貢献する上流の森林の管理等に府民の方々から均等に頂戴する森林環境税を投入するというのは、税金の使い道としての本来の趣旨にかなっていると思う。なので、下流に住んでいる人も上流の森林を大切にすることが自分たちの安心・安全に直結しているということを PR しながら事業を進めてもらいたい。
- 「歩道整備」というと、一般的には車道の横の道をイメージされるので、「歩道」ではなく「自然遊歩道」「遊歩道」といったように言葉の選択を考えた方がいいかもしれない。
- 猛暑対策事業については、前回より範囲が広がっているので、指標の計測の仕方について、質問の仕方を変えたり、調査項目を追加・変更したりする必要があると思うので、早めにご検討いただけたらと思う。
- 猛暑対策としての都市緑化はもちろん大事であるが、加えてグリーンインフラ的な観点から、雨水を貯留浸透すれば水害対策にもなるし、貯水した水を緑肥の水として使うといったようなことがよいのではないかと前回の会議で申し上げたが、今回、中之島 GATE でグリーンアクアミックスという基盤材を使ってそれに対応するという説明があったことはとてもよいと思う。
ここは海に面したところであるが、内陸の方でもおそらく展開できるのではないかと思う。高木植栽するのであれば、高木を植える場所の雨水の貯留浸透等も検討いただきたい。
- 学会で外国に行った際、役所の方がツアーをしてくれて、町の中の雨水浸透の仕組み等を見せてくれた。こういったツアーはアピールの手段としてすごくいいと思う。
- 今日ご説明いただいた現場を次年度に向けて、ぜひ一度見せていただきたいと思います。